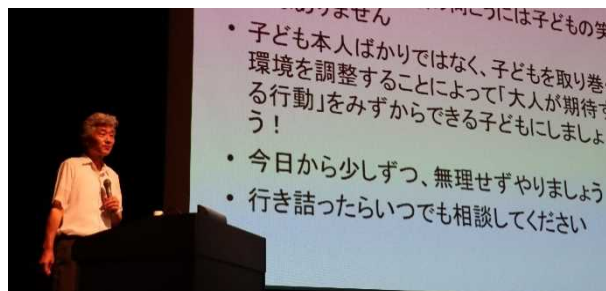


令和元年度 畑田小・西中 夏季合同研修会（支援教育）ふりかえり

7月22日に梅花女子大学の伊丹昌一先生にご講演にお越しいただきました。「愛着課題のある子どもの理解と支援」をテーマに、愛着課題のある子どもの特徴や関わり方、発達症と愛着障害の見立て方など分かりやすくお話をいただきました。



また、ご講演後も多くの質問にご丁寧にご回答いただき、深く学ぶことができました。研修を振り返って、小中の先生方からいただいたご感想を紹介いたします。



<ご感想>



- 伊丹先生のお話を聞かせていただきながら、「自分もついついそんな言い方してしまっているなー」とか「わかるわかる」と教師として、そして一人の親としてすごく共感できることが多くありました。自分の口から出る言葉一つひとつが相手に与える影響の大きさを感じました。
- 発達症と愛着障害の違いを分かりやすく学ぶことができました。学級の経営で自分が感じていたモヤモヤがすっきりしました。自分らしい子どもへの関わり方はどうしたらできるかなと考えさせられました。日々、余裕がなく子どもたちと思うように向き合えない罪悪感もあるので、1日のどこかでクラスで子どもがホッと一息つけるような時間をとりたいと思います。
- お話をきかせていただき、とても勉強になりました。以前関わった児童の顔が浮かび、あの時このようにしたらよかったなと思えることが多くありました。今後も様々な児童と関わると思うので、そのたびに今日の話を思い出し、実践していきたいです。
- 自分が担任した生徒と照らし合わせ、「もしかしたら愛着に課題があったのかな」と思い返された内容でした。今のクラスに2人、話がよくあてはまる生徒がいるので、この夏休みに応用行動分析の本を読みたいと思います。
- 興味深いお話ありがとうございました。よく「自尊感情を育ててあげることが大切」という話は聞くのですが、愛情不足で育ってきた子どもにどのようにすれば自尊感情が生まれるのか難しいなあと思ってきました。今回の講演では、具体的な事例があって大変わかりやすかったです。自然な形で自己有用感を与えてあげられるようにしてあげたいです。そして、何よりも私たち教師が疲れ果ててしまわないように笑顔でいなければいけないと感じました。
- とても有意義なお話を聴くことができ、うれしく思っています。ありがとうございました。“根気強く、向き合い続ければ子どもは必ず変わる”という先生のお言葉に勇気をもらいました。ついつい家庭の環境のことを考えてしまっていたのですが、目の前にい

る本人と向き合い、子ども自身が変わっていけるように受け止め、共感し、笑顔で関わっていききたいと改めて思いました。
• 先生のお話を聴いて反省することがたくさんありました。1学期の自分の姿を思い返しても笑顔で穏やかな声でやさしく見つめることができたのだろうか。子どもたちにとって安心できる存在、居場所をつくることができたのか。先生の話聴いて2学期からがんばりたいなと思いました。子どもたちのためにも自分の人生を大切にこれから指導していきたいなと思いました。
• とても元気の出る講演でした。笑顔の大切さ、本当だと思います。こちらから「あなたたちのこと好きだよ」ということを出していく。すると子どもたちはいい反応を示してくれます。
• 学級での子どもたちの行動の中に意外と多くの愛着反応があるのだと感じました。「ブレず」に一貫して関わる、CCQでの指示などとても難しいことだと思いました。子どもたちの気持ちに寄り添って関わる、自分の中できちんと良いこと悪いことを決め、子どもと向き合っていかなければならないのだと強く感じることができました。
• 生徒たちと接しながら、「どういう言葉かけをすればいいかな」「どう返事すればよかったのかな」と迷うことばかりです。先生のお話を聞いて、「私はあなたたちが好きだから、一緒に勉強したりおしゃべりしたりして西中で楽しく過ごしたいのよ」と温かく子どもたちを見守る姿勢で接していけばよいのかなとヒントをいただけたという思いです。やさしく目を合わせるだけでも安心感を感じてもらえるなら、話はせずとも生徒とコミュニケーションが取れるんだな…と2学期から笑顔でまた生徒に接したいと思います。
• 勤務していた学校に児童養護施設に入所している児童が在籍していましたので、子どもたちのことを思い出しながらお話を聞いていました。子どもたちの話を傾聴し、共感的理解をしながら信頼関係を築いていく重要性を改めて実感するとともに、私たちが笑顔で子どもたちと接することができるように遊びも大切に余裕をもって対応していきたいと思います。ブレない、キレない、笑顔、CCQ…、がんばります！
• 本日の話を聞いて、自分自身が楽しむということが出来ていなかったなと感じました。特に1学期後半にかけては、指摘が多く、ほめるということがとても少なくなってしまっていました。まずは、自分自身が笑顔でいることを心掛けて、子どもたちと向き合おうと思います。2学期から生かせる具体的な実践を教えてください、自分にパワーをもらえました。ありがとうございました。

たくさんのご感想やご意見、ありがとうございました。

子どもたちと笑顔で向き合い、安全基地になるためには、私たち自身に余裕が必要です。一人で対応するのではなく、チームで対応しているという大人側の安心感も必要だと思います。困っている気持ちを聞いてもらえる環境が大切だということですね。その教員間の連携が子どもたちにも伝わり、見守りの体制が整うのですね。

アイ（I）メッセージが子どもたちの心に響くのに効果的だというのは、いろいろなところでよく聞きます。握手やハイタッチのスキンシップも含めて、係や役割で活躍させて自己有用感を高めていきながら、子どもたちがほんの少しずつでも変化を見せてくれると嬉しいですね。



しばらく夏季休業期間が続きますが、2学期には今回の話を思い出しながら実践していきたいですね。先生方、お疲れさまでした。